岐阜大学
キャリア
センター
ニュース

Career Center News

No.5
2012.12

URL http://www1.gifu-u.ac.jp/~career/

巻頭言

キャリア教育事始め

佐々木 嘉三
元教育担当理事
副学長

佐々木嘉三
元教育担当理事・副学長

最近は，「キャリア教育の必要性」が広く認識されるようになり，大学設置基準でも教育上の目的として位置付けされるまでになっている。しかし，東海地区の大学でキャリア教育について議論されるようになったのは，ここ10年ほど前からであったと記憶している。『ＩＤＥ大学協会・東海支部』でも，「多様化する学生のためのキャリア教育」等の課題を取り上げ，名古屋大学において，数回に渡ってセミナーを開催している。しかし，当初の「キャリア教育」の内容は，主に私学が力を注いでいた『就職・入社試験支援』を目的とする教育であった。

岐阜大学では，2005年より教養教育のカリキュラム改革に合わせ，「職業観・勤労観の育成」，「専門的職業人として必要な知識・技能の習得」，「進路・職業選択能力の育成」などについて，学生が各自，意識的・自覚的に大学で学ぶことを目的に，総合科目『自分らしいキャリア設計』を2005年より立ち上げた。外部からも多数の講師を依頼しての授業のため，不十分な点も多々あったが，このような授業は東海地区でも先進的で，ＩＤＥの講演会で報告するよう要請された。

入学してきた学生が，岐阜大学の持つあらゆる知的財産・能力・設備等を活用して成長し，社会に巣立ってくれることを強く期待して開講された授業であった。授業を受けた学生達の反応では，「改めて，大学で学ぶ意義を振り返る機会になった」，「真剣にライフプランを考える機会になった」，「長所・短所を見つめ，自分を生かして行く大切さを学んだ」など，期待以上の感想もあった。

最近では，多様なタイプの『キャリア教育』が実施されて，学生の成長を援助しているようである。2011年に設立された「岐阜大学キャリアセンター」が，教養教育・専門教育を通じて，学生の学ぶ意欲を高め，研鑽を続けて，社会で活躍する人材を育成するための，教職員の力を結集する中核となるよう，強く期待している。

● 先輩社会人との交流会 ●

「学生から社会人への飛躍」に参加して

飯　田　　潤
地域科学部２年
キャリアセンター学生サポーター

交流会の様子

先輩社会人との交流会「学生から社会人への飛躍」が，2012年11月３日の大学祭の最中に，先輩社会人，在校生そして教職員の総数30名ほどで開催されました。休日にもかかわらずわざわざ来校し貴重な経験を語っていただいた６名の若い先輩社会人は，岐阜大学同窓会の協力を得て実施されたキャリアセンターアンケートの協力者の方々でした。出身学部は工学部・研究科３名のほか，地域，教育，応生各１名でしたが，就職先の業種や職種は様々であり，近年における就職の多様化を反映していました。

交流会では３名の先輩社会人の自己紹介の後，３つのテーマに区切ってお話を伺い質疑が行われました。テーマ１「就職先をどのような観点で，何を基準として選び決めたか」に関しては，夢を取るか現実をとるかで悩んだという経験談を多く聞きました。大学で学んだことよりももともと興味のあった営業職を選んだ方，チームでのモノづくりのできる企業を選んだ方など，自分の特性を見極めみ合った仕事が選択されていることがわかりました。しかしそれだけではなく，好きな星の観察を一生の仕事にしたいということをあきらめずそのために教職を選んだとか，仕事を通して地域に貢献できる仕事を選んだとか，就職先を決める基準は人により大きく異り１つではないことがわかりました。テーマ2「仕事のやりがいや転社・転職の実態について」で取り上げたやりがいは，就職先を決める基準として考えていたものを実際に業務として行う中で感じるといった意見が最も多く出ました。また転社・転職については，６名中３名の方がすでに経験しており，その理由をつぶさに語っていただきました。教職としてほぼ１年ごとに学校を転々としているというきびしい体験も語られました。テーマ３「学生時代を振り返って，在校生へ一言」では，学生時代にはできるだけ多くの様々な活動に取り組み，多くの経験を積むことの重要性が共通して語られました。さらに就活では業界研究をしっかりとやり準備を整えておくべきだというアドバイスが印象的でしたが，その１つの方法としてOG・OB訪問やインターンシップなどを大いに活用していく重要性が語られました。

現在は就職難と言われる時代ですが，それでも職場の不一致で転職・退職を繰り返す方も少なくないようです。夢を追いかけようとしても現実を見るしかなくなることも多々あります。その中で今何ができるのか，どのような職を手にしたいのか，それについてよく考え行動していくことが求められていると感じました。

調査分析シリーズ

● キャリア形成に関する企業の認識と取り組み―報告その２ ●

「国際的に活躍できる人材」の育成について

経済活動のグローバル化が進展するとともに，一般企業においても「国際的に活躍できる人材」の育成を必要としているといわれているが，岐阜大学の学生が就職する近隣地域の企業においてはこのことがどのように認識されているかアンケートで調査した。(調査対象192社，回答112社，回答率58.3%)

その必要性については図１にみるように，現時点では24.8%と全体の４分の１に過ぎないが，「今後」の必要

図１「国際的に活躍できる人材」育成について

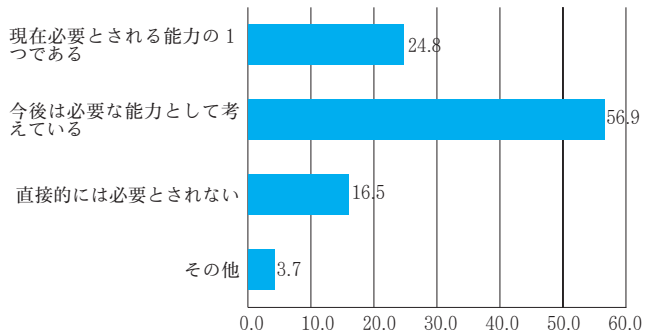
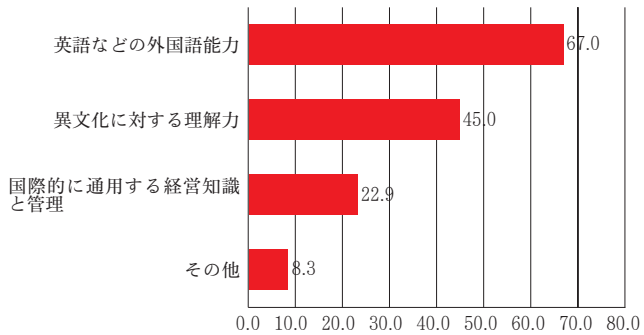


図２「国際的に活躍できる人材」育成で必要とされる能力について（複数回答）



性も合わせると80%を超えた高い回答率となっている。企業の従業員規模別にみると表１にみるように，現状については大企業において高いが，中堅企業や小企業においても「今後」についてはいずれも半数を超えている。したがって，製造業のほうが高いなど業種等における差異はあるとしても，必要とする認識は今後さらに高まるものと考えられる。

その具体的な育成にかかわる内容については図２にみるように，「英語などの外国語能力」67.0%がもっとも多いが，「異文化に対する理解力」も40%以上を占めおり，語学能力だけでなく広く教養的な知識も必要としている。さらに「国際的に通用する経営知識と管理能力」については，全体平均では22.9%だが，大企業については34.8%と高く，経営学などの専門的知識もあげられている。

経済のグローバル化への企業の対応として，その必要性は業種，職種，企業規模によって差異がみられるが，貿易などによる外国企業との取引機会の拡大だけでなく，海外での現地生産や営業活動などにも対応できる人材の育成の要請が高まってきていることを反映していると考えられる。異文化の理解には自国の日本文化に対する十分な理解が前提とされているのであり，学生のキャリア形成の視点から教養教育の充実が一層重要になってきているといえよう。　　(文責　キャリア・コーディネータ　今井　健)

表１「国際的に活躍できる人材」育成について

単位：％

項　目／規　模	計	企業従業員規模別			業　種　別	
		1,000名以上	300-900名	300名未満	製造業	非製造業
現在必要とされる能力の１つである	24.8	34.8	14.3	21.4	34.4	12.5
今後は必要な能力として考えている	56.9	47.8	71.4	53.6	57.4	56.3
直接的には必要とされない	16.5	13.0	20.0	17.9	8.2	27.1
その他	3.7	4.3	0.0	7.1	1.6	6.3
（回答総数）	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

● 先輩社会人「社会に出て，学生時代を振り返って」●

学生時代は人生で一番失敗の価値が高い時

松　林　康　博
平成17年度農学部卒業生

昔に比べて優秀な学生は減ったとよく言われますが，私はそう思いません。私は企業の人事担当者として，４千人くらい採用の選考や数十人のインターンシップの受け入れをしていた事がありますが，昔の大学生に比べると自分の将来を真剣に考える学生は増えているように思います。真剣な学生のインターン生は社会人顔負けの，時には社会人以上の成果を出してくる事さえあります。優秀な学生が減ったのではなく，学生の力を引き出せる人材が減ったというのが私の人事担当者としての持論です。そういう中で岐阜大学の熟議というイベントに80人も学生が集まっているというのはむしろ，優秀な学生が増えてくるのではないか，と感じます。

私の学生時代に比べると，学生が起業したり，インターンシップをしたり，ボランティアをしたりビジネスプランコンテストに参加したりとアルバイト，サークル，ゼミ以外にも多くの活動の選択肢が増えてきています。どんな活動をしても良いと思いますが，私自身が社会に出て，採用を担当した結果として，学生にアドバイスできる事は「大学生というのは人生で一番失敗の価値が高い期間」という事です。なぜならば，今の失敗は今後の社会人生活40年に効くからです。

だから，インターンシップをして，この職業が適していなかったと気づいても良いのです。社会人になってから短期間で転職を繰り返せば軽率と言われてしまう事もありますが，大学生は色々と会社を比較しても良いと思います。

世界を一周しても，アルバイトをたくさんしても，自分が向いている事を探しても良いのです。大切なのはチャレンジをたくさんする事です。考えるよりも行動。やった事が無い事をするからチャレンジであり，やった事が無いから失敗するもするのです。

大切なのはチャレンジをした事とそこからどれだけ学び取る事ができたかです。たくさん学び取ろうと思ったら，本気で取り組む，その本気で取り組んだ経験だけが今後40年以上続く社会人生活に必ず役に立ちます。

● キャリア形成の自主的活動 ●

「ボランティア」を考える ―栃尾里人塾と日中文化交流会に参加して―

岩　田　紗代子
地域科学部３年

「ボランティアってなんだろう？」一抹の不安を抱きながらも，友人と２人，好奇心で初めて栃尾里人塾に参加したのは９月のことでした。栃尾里人塾は，里山の知恵と工夫，人々の元気を未来に伝えるため，地域住民と「ヨソ者」がそれぞれの視点から田舎暮らしについて考え，実践する場です。そして私達の役目はその両者をつなぐことでした。作業後の交流会で参加者の方々と熱い討論を交わした結果，「久しぶりに大学生らしい大学生に会った」と皆さんと打ち解けることができました。

10月は今年最後の里人塾ということで盛大な交流会が開かれました。学生も多く集まり，ある先輩の一発芸が一気に会を沸かせました。私自身も奮闘したのですが，先輩には及ばず悔しい思いをしていたところ，里人塾のリーダーの方が私に声をかけて下さいました。「人を楽しませることこそ究極のボランティアだ。」その言葉が私のスイッチを押しました。

日中文化交流会

里人塾を終えて，すでに参加が決まっていた11月の日中文化交流会の準備を進める間，常に中国人の方々を楽しませることを念頭にボランティアスタッフ全員で打ち合わせを重ねました。当日は中国語で自己紹介を行い，餃子・チマキ作りを通して交流を深めました。知らないことに積極的に挑戦することで，皆さんが私を応援してくださり会話も弾みました。食後は私達学生ボランティアスタッフが主となって日本の教育制度の説明と座談会を開き，予想以上に具体的な質問が多かったため戸惑ってしまうほどでした。

ボランティアには個々の定義があってよいと思います。しかし，「作業をミスなく終えること」ではないと思います。また，ボランティアは見返りを求めない活動と思われがちですが，実際は日常生活では得られにくい感謝や称賛を体中で感じられる貴重な機会だと思います。私はボランティアを「人を楽しませること」と定義しました。これも里人塾の方のお言葉ですが，就職活動が始まる今，ボランティアの中で得た数々の経験をもとに「ボランティアなスーパー社会人」を目指したいと思います。

● 学部における就職・キャリア形成支援の取り組み ●

医学部看護学科のキャリア形成と就職状況

大　法　啓　子
医学部看護学科 教務厚生委員会厚生主任

医学部看護学科（定数80名）の卒業生は，ほとんどが保健師・助産師・看護師・養護教諭として保健所や病院・学校等に就職し，数名が大学院等へ進学している。平成21年度から平成23年度卒業生の就職・進学状況をみてみると，卒業生総数255名で就職者は242名（約95%），大学院等への進学者は９名（約４%）であった。全国的に看護職員の需要は高く，第七次看護職員需給見通しによると平成24年12月末で約51,000人が不足，岐阜県では約1,300人が不足と推定されており，看護職員として就職を希望すれば100%就職できる状況である。2006（平成18）年の診療報酬制度の改正に伴い「７対１」看護体系が創設されたことで看護職員の需要が急速に高まり，卒業生にとっては引く手数多の状況が続いている。しかし，卒業生の中には就職したとたん職場環境に適応できずに離職するケースもみられるため，学生自身が適性やキャリア形成に応じて就職先を決めることができるように情報提供すると共に学生個々へのきめ細かい指導が必要となっている。学科全体の取り組みとしては，教務厚生委員会が中心となって就職ガイダンスの案内や看護職員募集の資料を掲示する「就職コーナー」を看護学科棟内に設置して情報提供をしている。また，個々の学生に対しては，助言教員が国家試験対策や就職に関する相談に応じている。

実習施設の求人情報コーナー

看護学科のカリキュラムでは臨地実習が必修であり，総合病院はじめ訪問看護ステーション・市町村保健センター・助産所など県内外で約70か所の施設で実習指導を引き受けていただいている。しかし，附属病院以外の実習施設に就職する卒業生は少なく，愛知県内に就職する学生が多い（就職者の約35%）ことから，実習施設の需要に応えられていない。この問題に少しでも応えられるよう，今年度から「就職コーナー」に実習施設コーナーを設けた。少しでも多くの卒業生が実習施設に就職し，数年後には実習指導者として後輩指導を通して「自らが成長」する看護職になっていただくことを期待したい。

●学生の自主的活動を支援する平成24年度事業の採択結果●

「基盤的能力を育成する学生支援プロジェクト事業」（岐阜大学キャリアセンター主催）の学内公募が７月に実施され，「2012年度岐阜大学イルミネーション」「学生が集えるカフェ作り」「やな学プロジェクト(やながせ×学生)」の３課題が採択されました。当事業は学生の基盤的能力（考える力，伝える力，進める力）の育成を目的に独創的な自主的プロジェクト事業を支援するものです。冬の夜空を彩るイルミネーションなど，すでに助成を受けて活動が始まっています。

キャリアセンターニュース編集委員
委員長　佐々木実（キャリアセンター長）　委員　今井　健（キャリアセンター特任教授）
委　員　酒光伸嘉（課長補佐・就職支援室長）　委員　籔田　薫（キャリアセンター参事補）

●岐阜大学キャリアセンター●
〒501-1193 岐阜市柳戸1－1
キャリアセンター TEL 058-293-3393 career@gifu-u.ac.jp
就職支援室 TEL 058-293-2147・3362 job@gifu-u.ac.jp